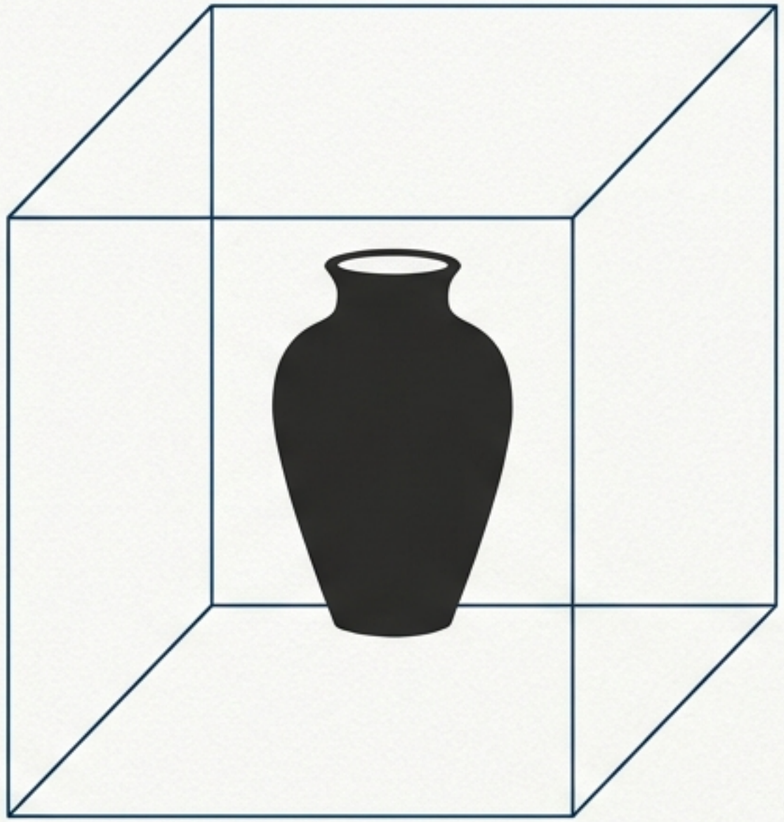
デジタルアーカイブの評価とメタデータ

第3講：アセスメントツールから国際標準記述まで



谷 里佐（岐阜女子大学） | Lecture 3 Source Material

NotebookLM

Noto Serif JP

「アクセス数」だけで成功は測れない

BIZ UDPGothic

従来型の指標（PV数など）

BIZ UDPGothic

役割の達成度

BIZ UDPGothic

- 組織の規模やミッションに応じた客観的な自己評価

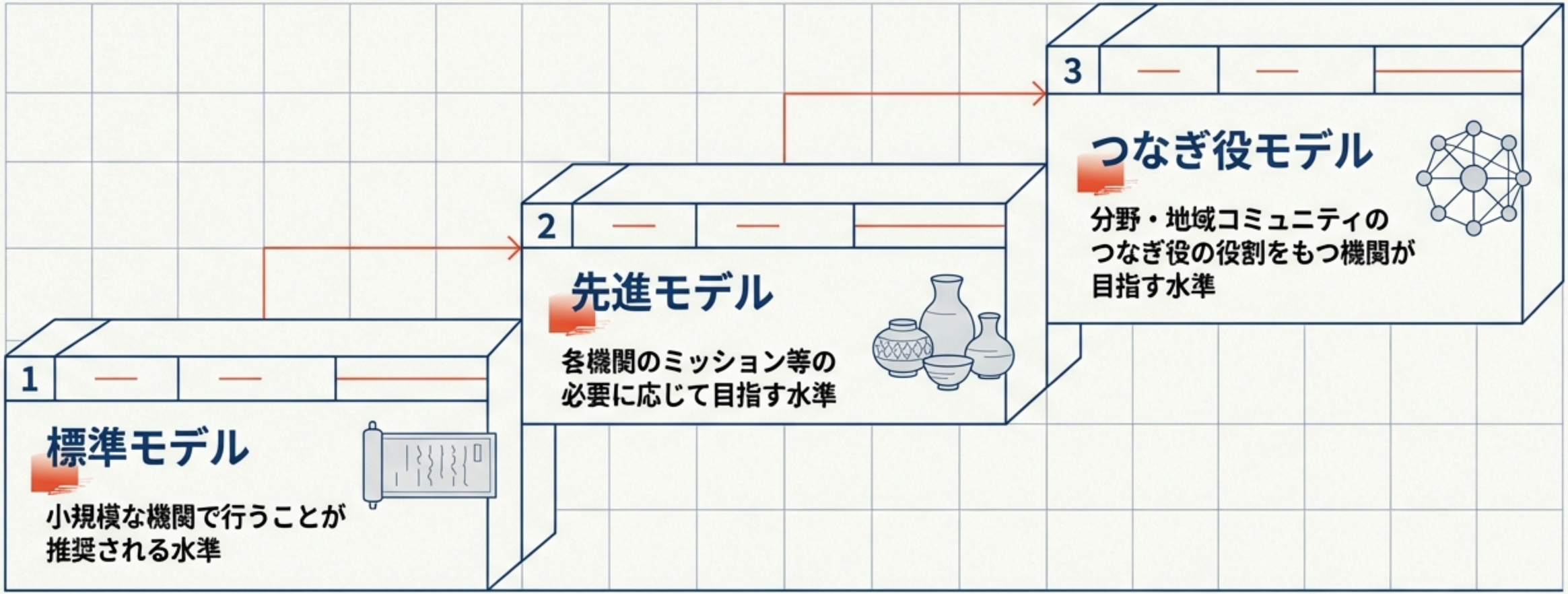
BIZ UDPGothic

出典：知的財産戦略本部 デジタルアーカイブ推進委員会

NotebookLM

デジタルアーカイブアセスメントツール

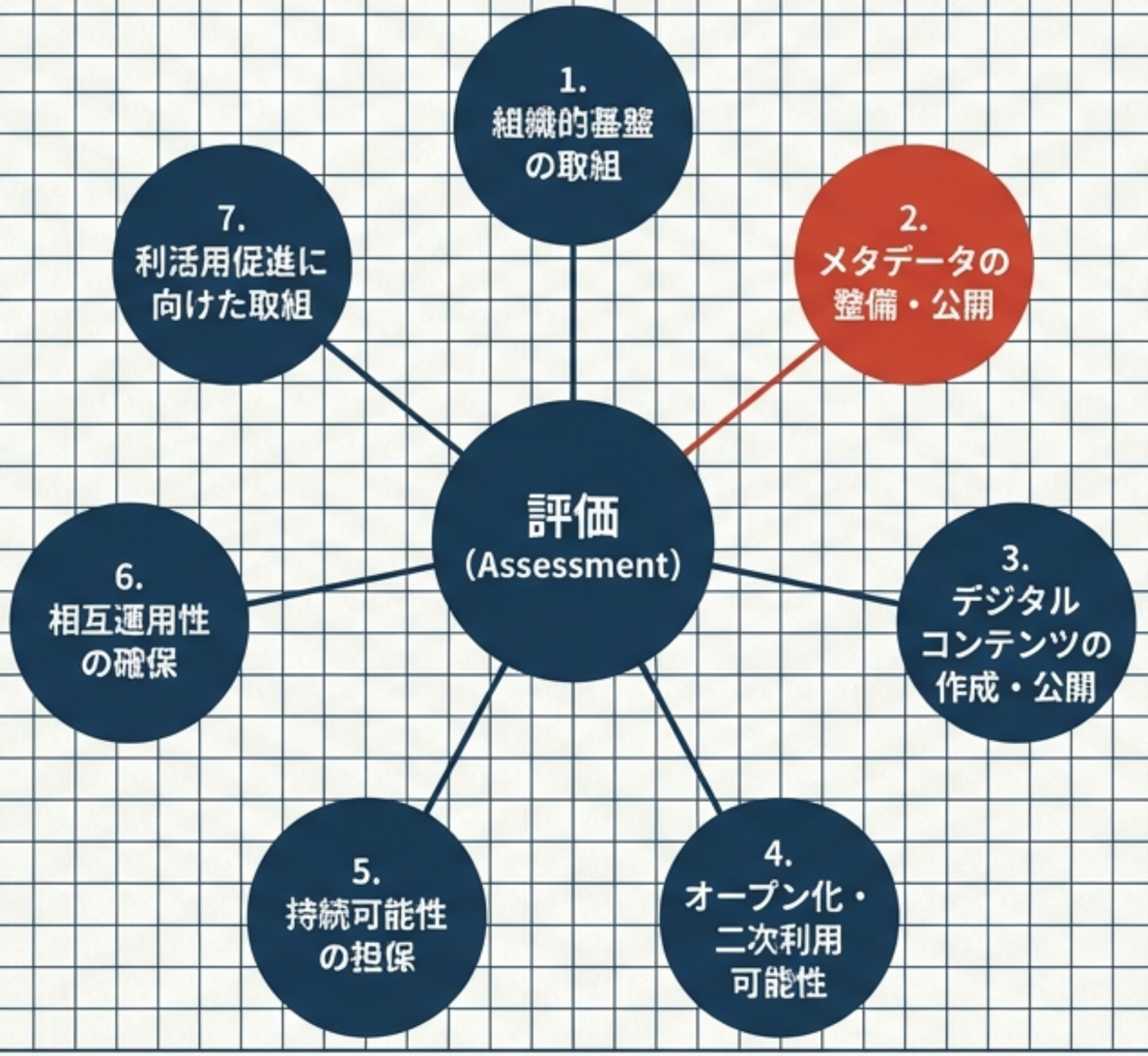
2020年改訂版：各機関が自らの役割に対しての達成度を確認するための3つのモデル



出典：知的財産戦略本部 デジタルアーカイブ推進委員会

NotebookLM

評価を支える7つの柱



出典：知的財産戦略本部 デジタルアーカイ

NotebookLM

誰のためのアーカイブか？

ユニバーサルデザイン（Universal Design）

“特別な製品や調整なく、最大限可能な限り、すべての人々に利用しやすい製品、サービス、環境のデザイン”

— Ronald Mace

作成者側の一方的な情報提供

利用者主体の能動的な利活用

出典：知的財産戦略本部 デジタルアーカイブ

NotebookLM

ユーザビリティとアクセシビリティ

誰のためのアーカイブか？ — ユニバーサルデザインの視点

ユーザビリティ（Usability）	アクセシビリティ（Accessibility）
特定の利用者が、特定の状況下で、 目標を達成するための利用のしやすさ。	さまざまな人が、さまざまな状況で 利用できること。

実装例（Examples）

カラーユニバーサルデザイン

UDフォント

出典：知的財産戦略本部 デジタルアーカイブ推進委員会

NotebookLM

メタデータ：発見への架け橋

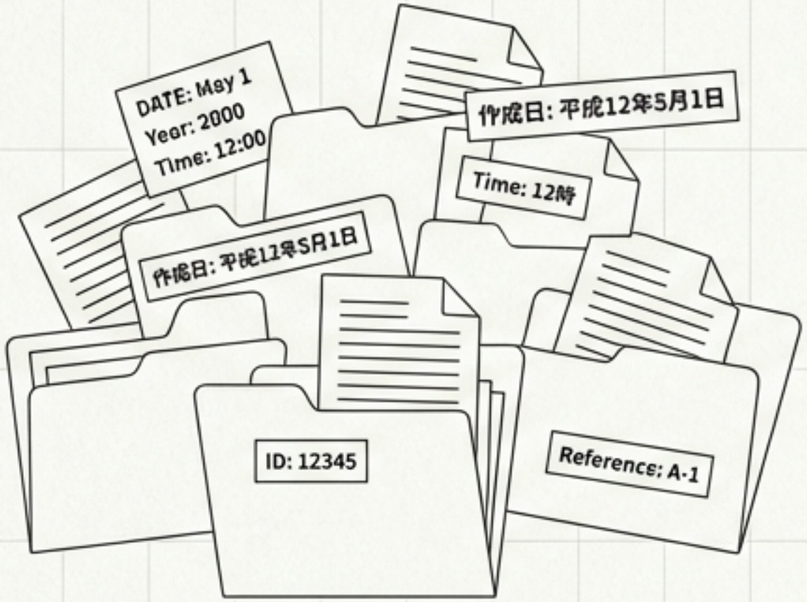
タイトル: 黒楽茶碗 (Title)
時代: 江戸時代 (Era)
場所: 京都 (Location)
撮影日: 2023-10-15 (Date)

メタデータとは『データに関するデータ』（二次情報）です。
画像データだけでは検索できません。
メタデータが付与されることで、初めて資料は『発見』されます。

NotebookLM

なぜ「標準化」が必要なのか

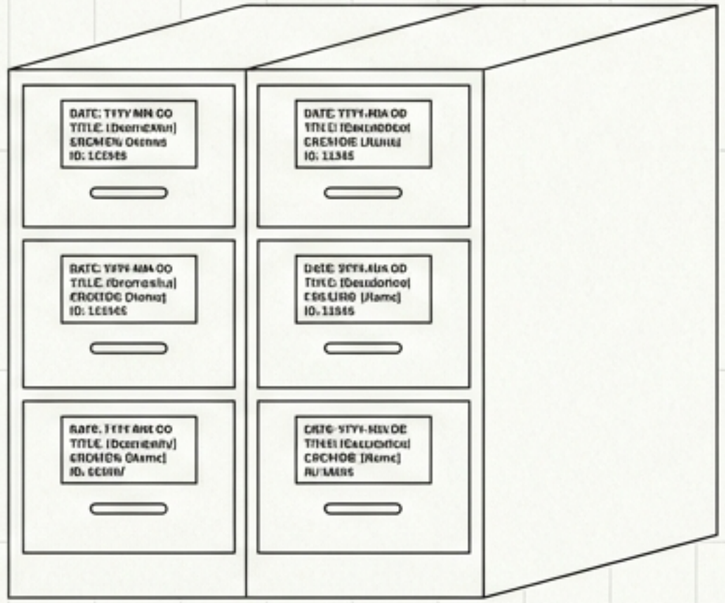
記述のバラツキ（Inconsistency）



利用者が資料にアクセス困難

BIZ UDPGothic, Sumi Ink

国際標準・国際指針（International Standards）



共通ルールによる相互運用とデータ共有

BIZ UDPGothic, Sumi Ink

NotebookLM

国際標準 ①：Object ID

識別とセキュリティ（Identification & Security）

OBJECT ID INVENTORY CARD

ICOM（国際博物館会議）ライセンス

目的 (Purpose)
文化財の文書化・識別
(Documentation & ID)

用途 (Usage)
盗難・紛失時の特定
(Theft & Loss Recovery)

協力 (Collaboration)
博物館、警察、税関、保険業界

BIZ UDPGothic　シミインク・Museum Board white。使えない写真が国際的の識別におけるもの標準。文化財物館の穫難の繼文を利用するためのため、自分になる言い、み絲繊等な指定である。

NotebookLM

国際標準 ②：ダブリン・コア (Dublin Core - DCMES)

ウェブ標準と相互運用性 (Web Standard & Interoperability)

Content Description	Intellectual Property	Instantiation
1. Title タイトル	6. Contributor 寄与者	11. Source 出処
2. Creator 作成者	7. Date 日付	12. Language 言語
3. Subject キーワード	8. Type 資源タイプ	13. Relation 関係
4. Description 内容記述	9. Format 記録形式	14. Coverage 空間範囲
5. Publisher 公開者	10. Identifier 資源識別子	15. Rights 権利管理

BIZ UDPGothic　シミインク・**ISO標準**（2003年）。**最も汎用性性が高く**、異なる機関の情報を集約するのに適している。

NotebookLM

国際標準 ③：IGMOI（CIDOC）

博物館資料の専門性（Museum Specialization）

正式名称: International Guidelines for Museum Object Information
開発: ICOM-CIDOC (1995年)
構成: 22の情報グループ、74のカテゴリー

特徴: 長期保存や修復履歴（Condition）など、博物館 特有の管理項目を網羅。

参考: 文書館 (ISAD(G))、図書館 (ISBD)

NotebookLM

地域資料の独自性：5W1Hモデル

岐阜女子大学による地域資料（年中行事、衣食住、記憶）への適応

When（いつ）

How（どのように）

Where（どこで）

Why（どうした）

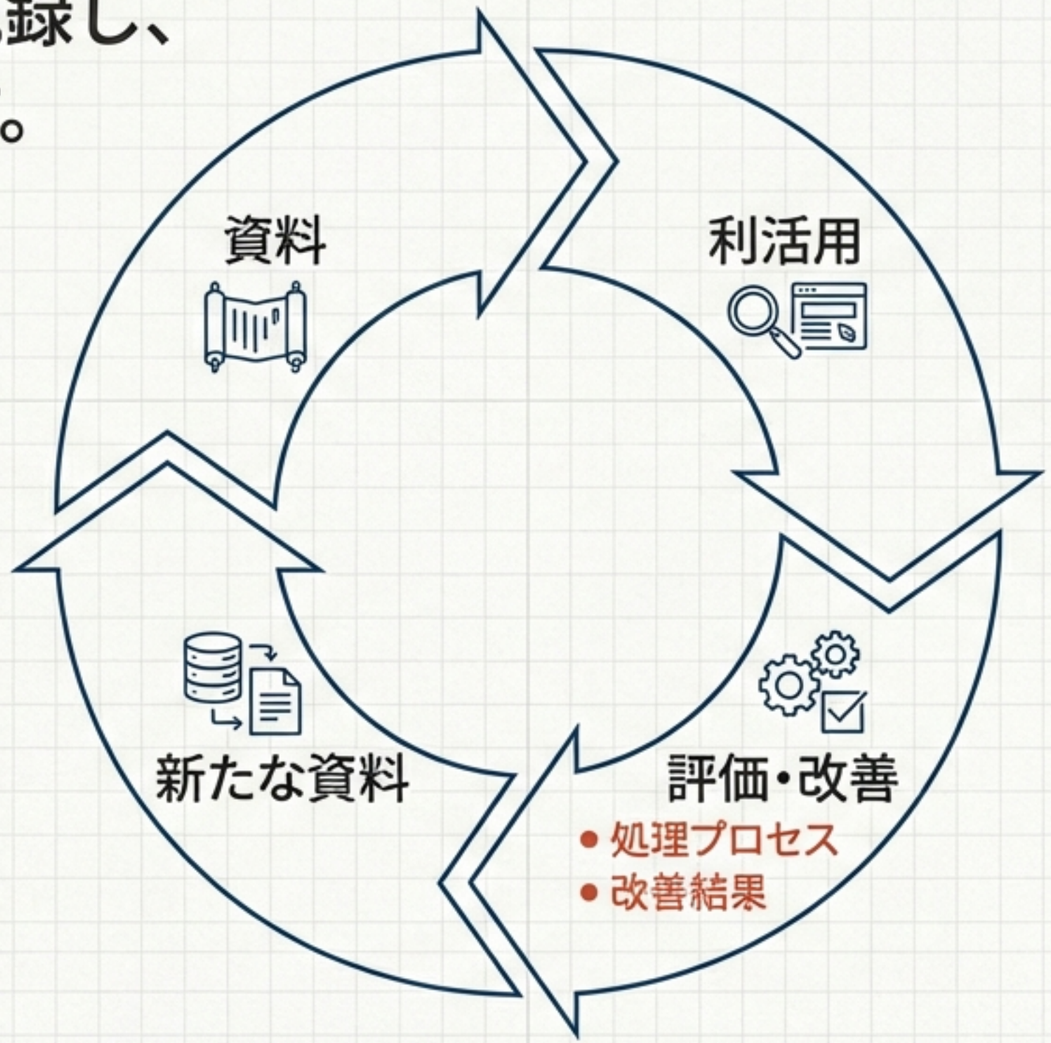
Who（誰が）

What（何を）

NotebookLM

「知の増殖型サイクル」

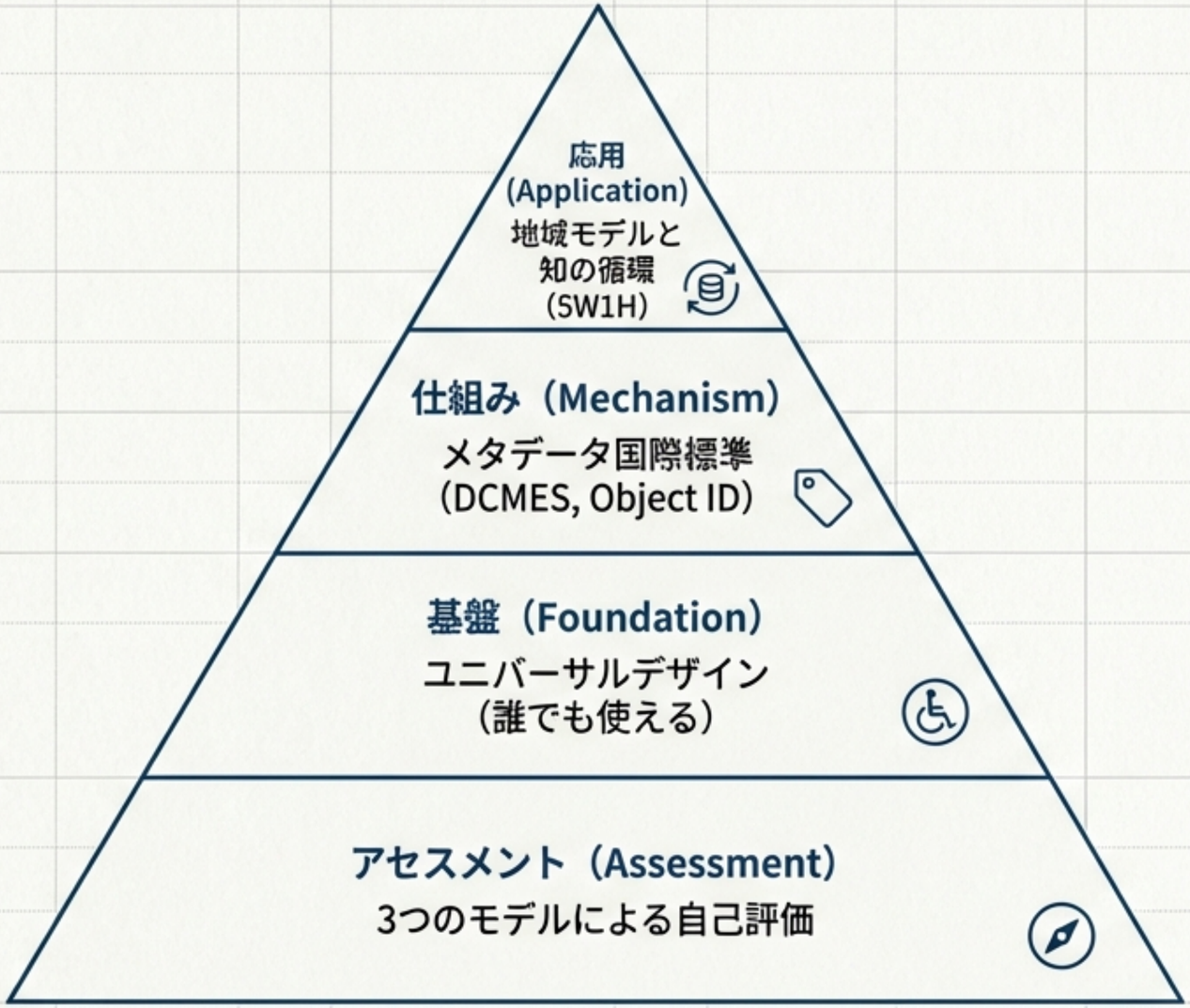
プロセスと結果を記録し、
新たな知を生み出す。



参考：文書館 (ISAD(G))、図書館 (ISBD)

NotebookLM

まとめ：評価から実装まで



持続可能で、
発見される
アーカイブへ。

NotebookLM

課題と実践

1. 評価項目の分析

「デジタルアーカイブ アセスメントツール」の評価項目の中から、最も重要だと考える項目を選び、その理由を説明してください。

2. メタデータの作成

身近な資料（情報資源）を一つ選び、メタデータ項目を設定した上で、実際に記述を行ってください。

以上

参考：文書館 (ISAD(G))、図書館 (ISBD)

NotebookLM